

探訪 北の風景 ⑤

「新しい公共」に挑むリゾート地

渡島管内七飯町大沼公園
流山温泉地区

青木和弘

打ち砕かれた岩や、なぎ倒された巨木、吹き寄せられたように積み上げられた枯れ枝は、まるで、噴火という大自然の災禍から復興に挑んだ人々の記憶をよみがえらせたようだ。流山温泉を訪れて最初に驚かされるのが、彫刻家・流政之氏による斬新なデザインだろう。

露天風呂から望む駒ヶ岳（1131㍎）は、美しくも、時を超えて畏怖すべき対象として圧倒的な存在感で迫ってくる。それでも、少し緑色を帯びた源泉掛け流しの湯につかり、手足を伸ばすと、旅の疲れや体の凝りがほどけていくようだ。

JR北海道によって2002年、流山温泉と、流政之氏の作品を展示した彫刻公園「ストーンクレージの森」が開業した。JR流山温泉駅も新設され、翌年にはキャンプ場やパークゴルフ場もできた。もともとはゴルフ場もある大規模リゾート計画だったがバブル崩壊で自然体験型観光施設に方向転換を図ったのだ。

しかし、その後の景気低迷は観光産業にも大きな影を落とした。大沼公園のある七飯町の観光客入込み数は02年に268万人あったが、10年後の11年には153万人、道内客は143万人が46万人まで減ってしまった。

JR北海道は11年、流山地区の経営方針を大きく転換した。流山温泉を地域のコミュニティセンターとして育て、地域防災の拠点として「新しい公共」に取り組むことにしたのだ。JR北海道と、自然体験活動に取り組む「NPO法人ねおすと」、七飯町や地元関係者で、新たに「NPO法人大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター」（略・同センター）を組織し、自然体験交流事業と、すべての施設と森林の管理運営をゆだねたのだ。

「新しい公共」を担うため「ななえ大沼ひとまちづくり協議体」ができた。参加は、東大沼町内会（地域住民）、七飯町（行政）、北大大学院地



ストーンクレージの森にある流政之氏の作品「もどり雲」
(JR北海道文化財団提供)

球環境科学院（研究機関）、同センター（NPO）、JR北海道（企業）だ。

流山温泉を地域防災の拠点にし、噴火、地震、台風などに備え、一時避難所として利用するための備えに取り組むのだ。野外での火おこしや炊き出し、電気が使えないときの対処、食品の保存や救命法、火山についての学習など、大人も子どもも対象で、大人のためのサバイバルキャンプや、子どももきり隊やまき割り体験、駒ヶ岳噴火史講座など、体験型学習で楽しく学びながら住民の交流を図っている。これによって、流山温泉は地域





流山温泉の露天風呂から望む駒ヶ岳は四季折々美しい姿を見せる



キャンプ場エリアで開かれた木と親しむ「木育」イベント
(NPO大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター提供)

に必要とされる施設に変わってきたという。
 キャンプ場では四季折々、子どもたちが自然と親しむイベントが開かれている。ここには、毎年、原発事故の放射能汚染に悩む福島県の子どもたちが訪れる。「福島の子どもの笑顔と元気を応援する『ふくしまキッズ』実行委員会」の取り組みで、夏、冬、春に、幼児から中学生までが長期滞在する。今年の夏休みは、7月27日から8月23日まで、約120人が参加した。
 かつての大量消費型の大型リゾートではなく、環境保全と地域振興、観光振興のバランスがとれ、持続可能な、新しい時代の、地域づくりの試みが東大沼の流山温泉地区にあった。